足立区の高齢者孤立死
データ分析結果

当分析では、「単身者の自宅での死亡」を「孤立死」と定義します。

■■■ 目次 ■■■

1　死亡時期別の集計結果
（１）月別高齢者孤立死　（Ｐ３）
（２）夏季（７月・８月）の高齢者孤立死（最高気温別）　（Ｐ４）
（３）夏季（７月・８月）の高齢者孤立死（最低気温別）　（Ｐ５）
（４）冬季（１月・１２月）の高齢者孤立死（気温差別）　（Ｐ６）
（５）死亡直前の状況別　（Ｐ７）

2　性別による集計　（Ｐ８）

3　コロナ禍における変化　（Ｐ９）

4　集計結果・分析結果　（Ｐ１０）

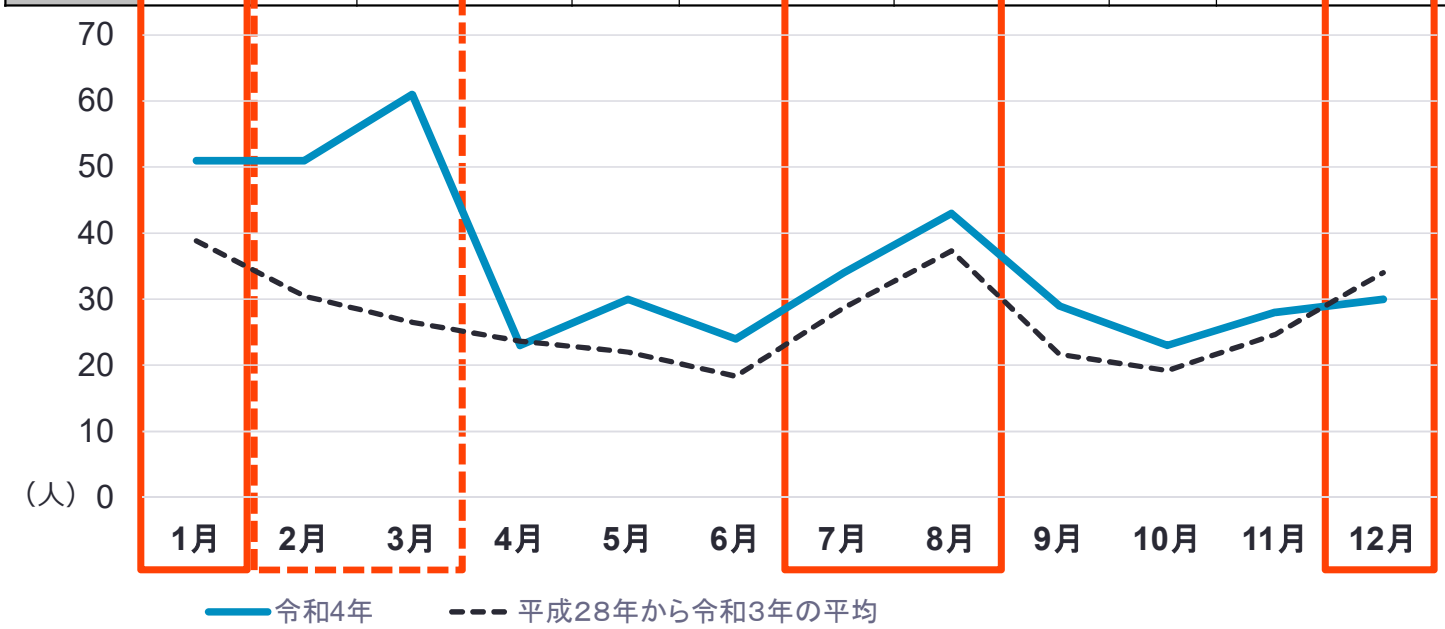
5　今後の取り組み　（Ｐ１１）

【データ出展】
① 東京都監察医務院提供データ（平成２８年～令和４年）　（全ページ）
② 気象庁ホームページ「過去の気象データ検索」　（P4、５、６）
③ 東京都監察医務院ホームページ「令和4年夏の熱中症死亡者数の状況【東京都23区（確定値）】」　（P5）

１－（１） 月別高齢者孤立死

年月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	高齢者孤立死増加率（対前年）	高齢者人口※	単身高齢者人口※	単身高齢者増加率	単身高齢者千人あたりの孤立死者数
平成28年	26	27	34	18	29	13	23	20	23	9	25	35	282		165,910人	51,583人		5.5人
平成29年	35	22	22	19	17	23	14	25	18	17	23	35	270	-4.3%	168,323人	53,564人	3.8%	5.0人
平成30年	50	33	19	10	24	18	55	27	18	26	23	33	336	+24.4%	169,994人	55,268人	3.2%	6.1人
令和元年	51	28	31	27	20	16	33	58	13	18	25	29	349	+3.9%	170,890人	56,858人	2.9%	6.1人
令和2年	34	38	34	33	23	21	20	59	32	25	25	40	384	+10.0%	171,378人	58,285人	2.5%	6.6人
令和3年	37	35	19	35	19	19	27	35	26	20	27	32	331	-13.8%	171,715人	59,636人	2.3%	5.6人
令和4年	51	51	61	23	30	24	34	43	29	23	28	30	427	+29.0%	169,573人	60,733人	1.8%	7.0人
合計	284	234	220	165	162	134	206	267	159	138	176	234	2,379					

※ 各年１月１日現在



令和４年の孤立死者数は
平成２８年以降最大であった

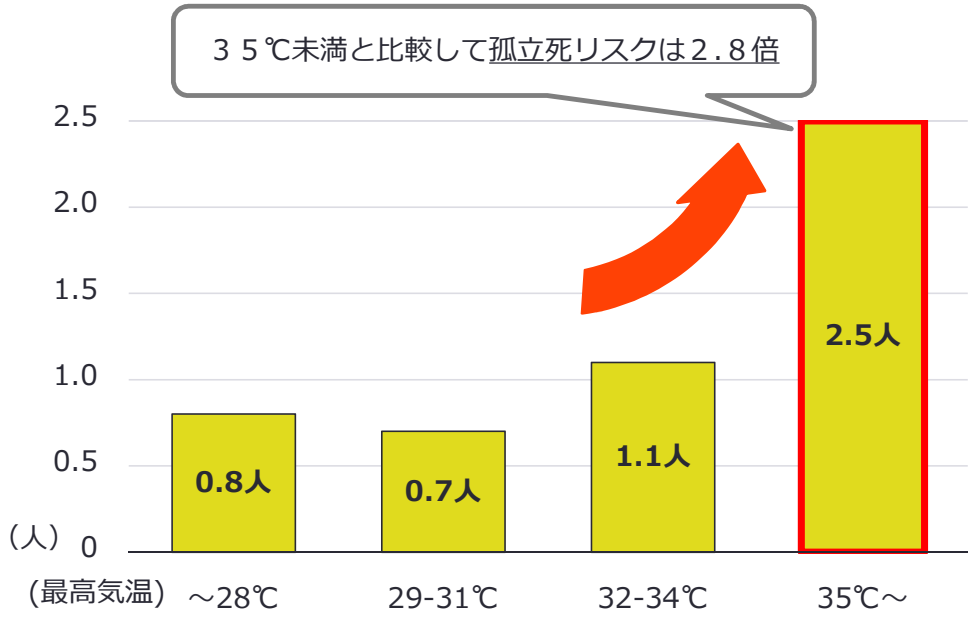
1　夏季（７月、８月）、冬季（１月、１２月）の人数が増加する傾向は継続している。

2　令和４年は特に２月、３月の人数が増加している。

１－（２）　夏季（７月・８月）の高齢者孤立死（最高気温別）

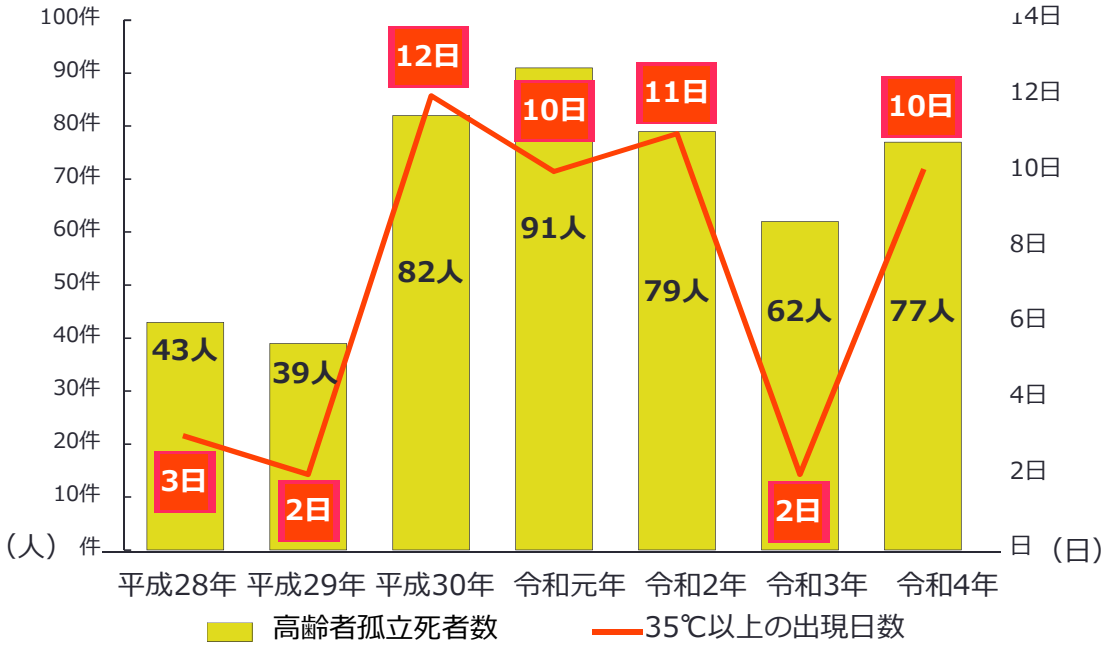
最高気温別の平均人数／日

最高気温３５℃以上の日は平均２.５人
最高気温３５℃未満の日は平均０.９人



35℃（猛暑日）の出現日数と高齢者孤立死者数

35℃以上の出現日数に連動して、
高齢者孤立死者数も増減している。

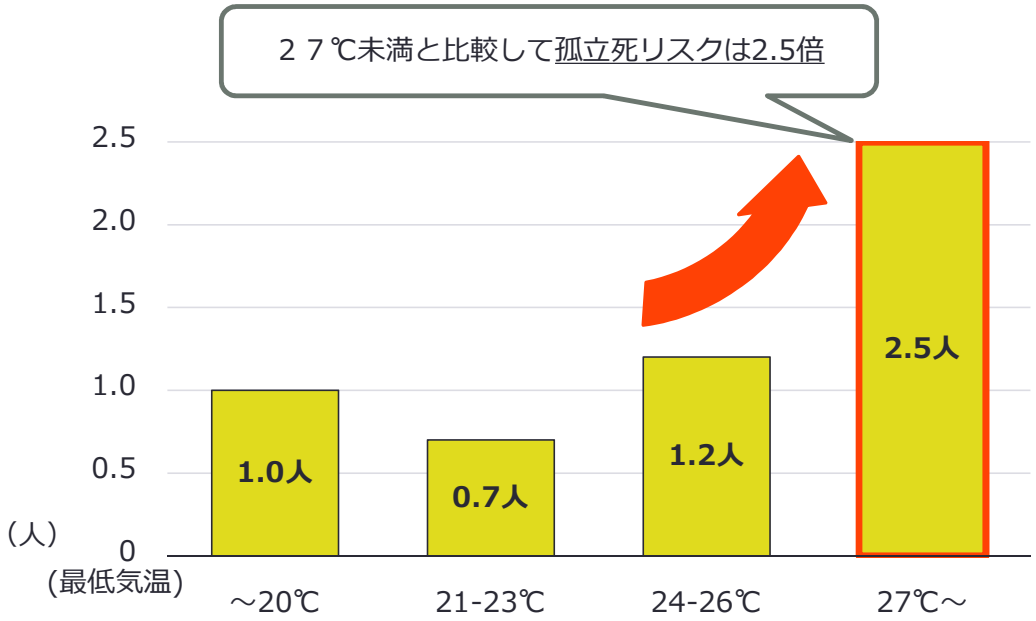


最高気温が３５℃（猛暑日）を上回ると、孤立死リスクが高まる

１－（３）　夏季（７月・８月）の高齢者孤立死（最低気温別）

最低気温別の平均人数／日

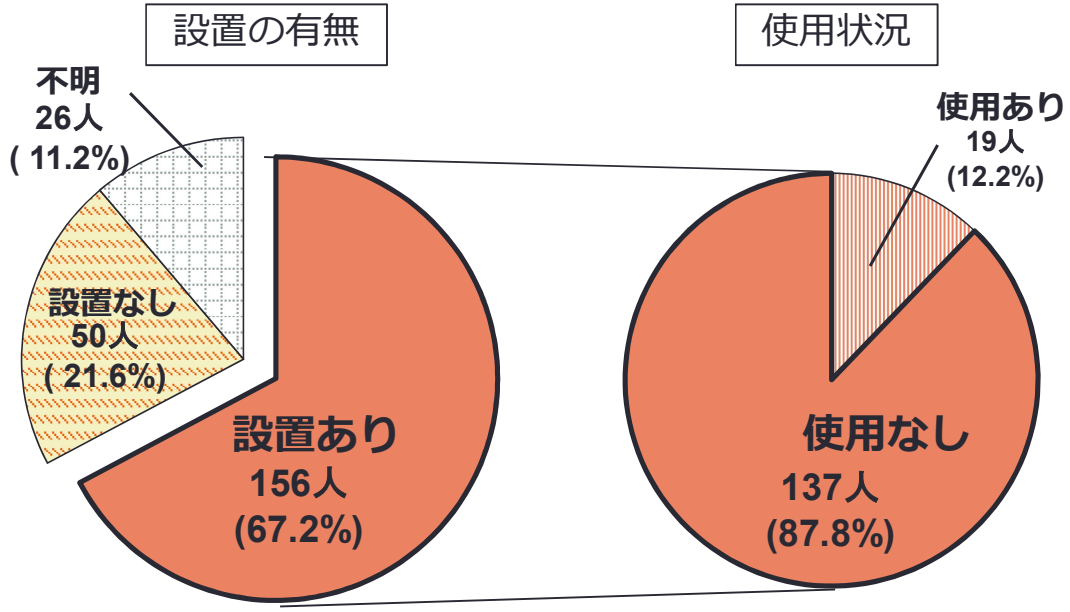
最低気温２７℃未満の日は平均1.0人
最低気温２７℃以上の日は平均2.5人



最低気温が２７℃を上回ると孤立死リスクが高まる

熱中症死亡者（屋内）のエアコン設置有無および使用状況

令和４年６～９月（特別区内全域、世帯構成・年齢不問）

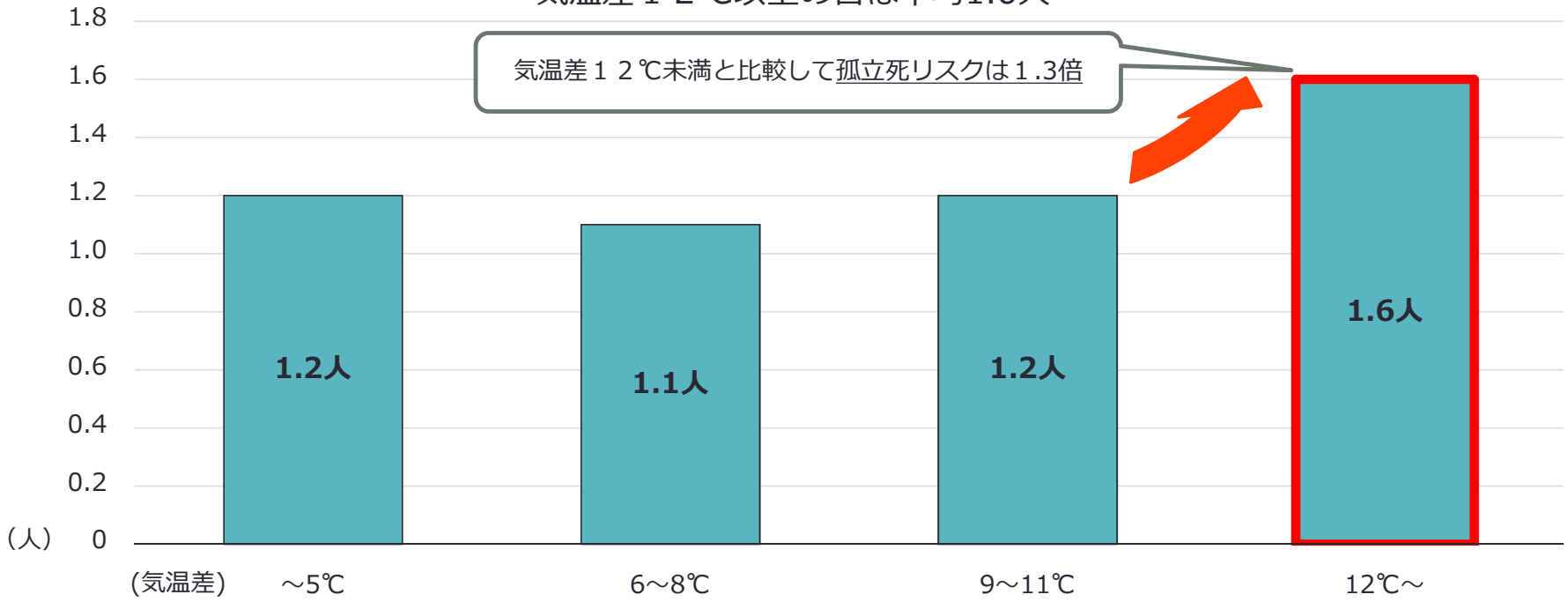


エアコンが使用できる状況であった熱中症死亡者のうち、**８７.８%は使用していなかった**。

1－(4)　冬季(1月･12月)の高齢者孤立死(気温差別)

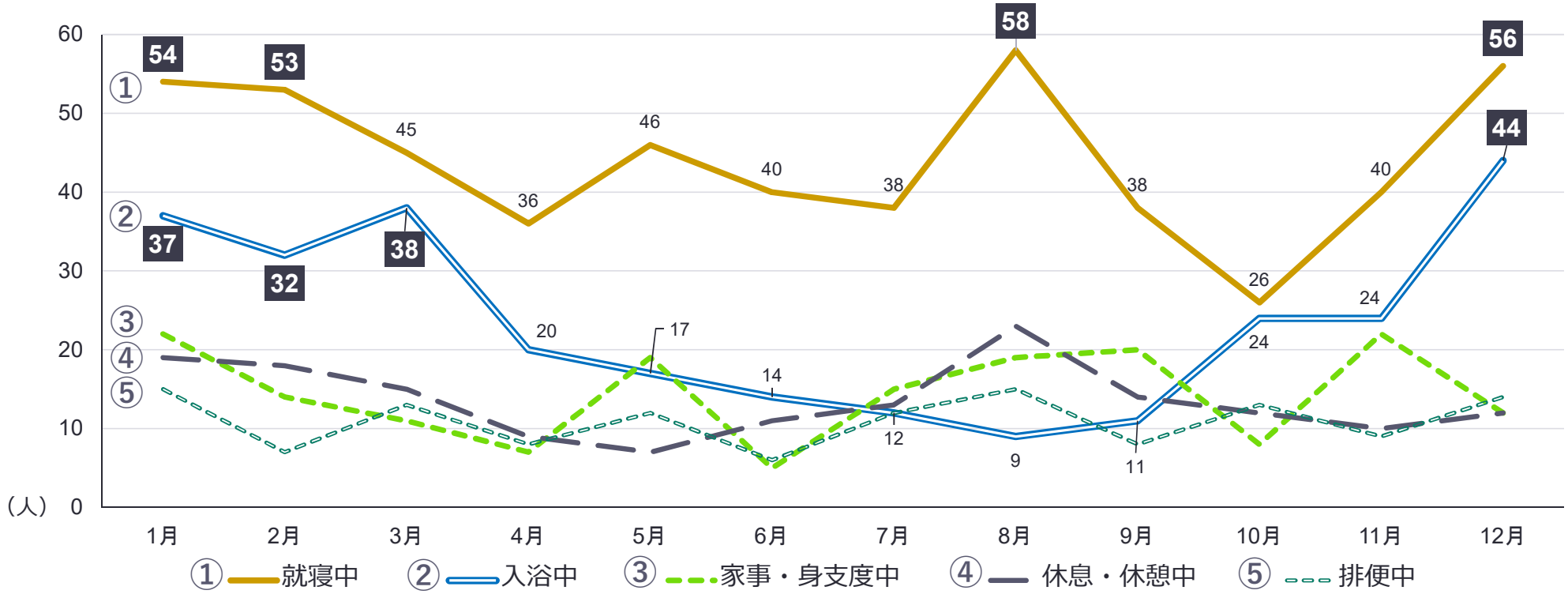
気温差（最高気温-最低気温）別の平均人数／日

気温差１２℃未満の日は平均1.2人
気温差１２℃以上の日は平均1.6人



気温差が１２℃を上回ると孤立死リスクが高まる

1－(5)　死亡直前の状況別



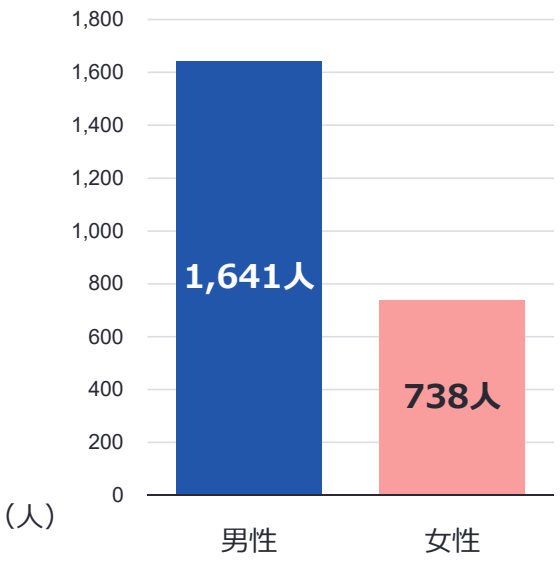
※ 状況別孤立死者数上位５種を集計（その他、不詳を除く）

「就寝中」の人数は一年を通して多く、**夏季（8月）と冬季（1、2、12月）は特に孤立死リスクが高まる**
「入浴中」は**冬季（ 1、2、12月）から春季（3月）に孤立死リスクが高まる**

２　性別による集計

性別ごとの高齢者孤立死者数

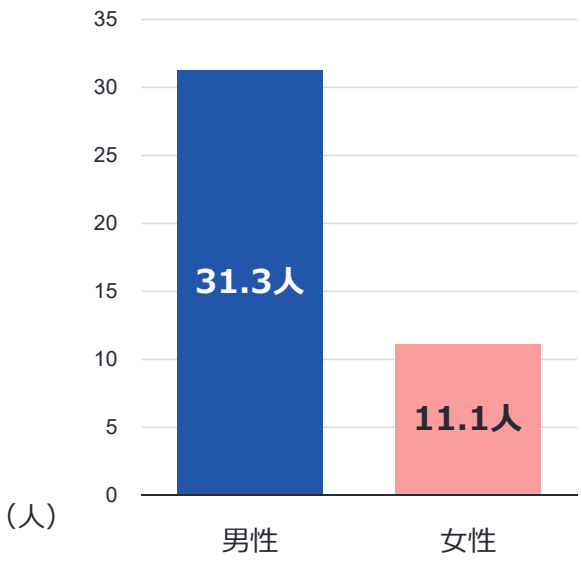
男性１,６４１人　女性７３８人



男性の方が２.２倍多い

性別ごとの高齢者１万人当たりの高齢者孤立死者数

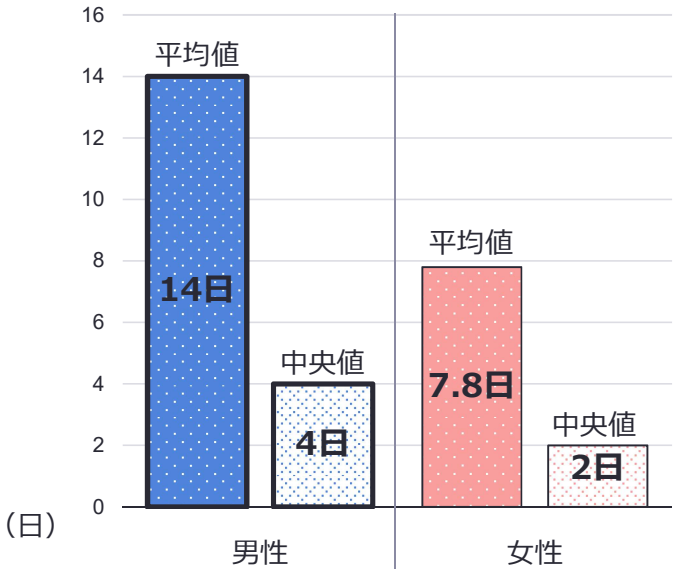
男性３１.３人　女性１１.1人



男性の方が２.８倍多い

性別ごとの死後経過日数

【平均値】**男性１４.０日　女性　７.８日**
【中央値】**男性　４.０日　女性　２.０日**
【最大値】男性　８１１日　女性３５１日



いずれも**男性の方が期間を要している**
また、**３０日以上経過は８３%が男性**であった

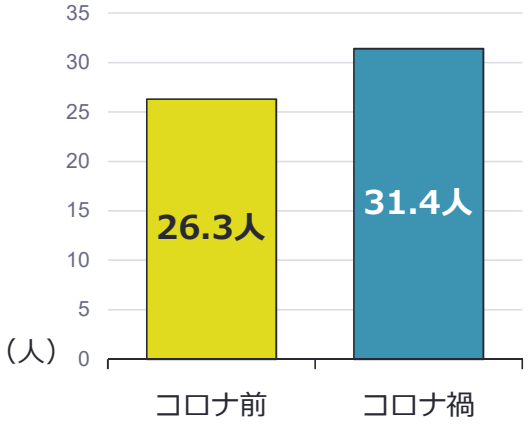
３　コロナ禍における変化

死亡日において、平成２８年１月～令和２年３月をコロナ前、令和２年４月～令和４年１２月をコロナ禍と定義する。

発生者数（月平均）

コロナ前　２６.３人
コロナ禍　３１.４人

19%増加

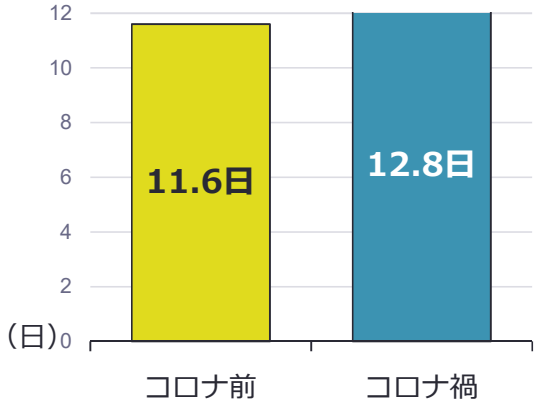


死後経過平均日数

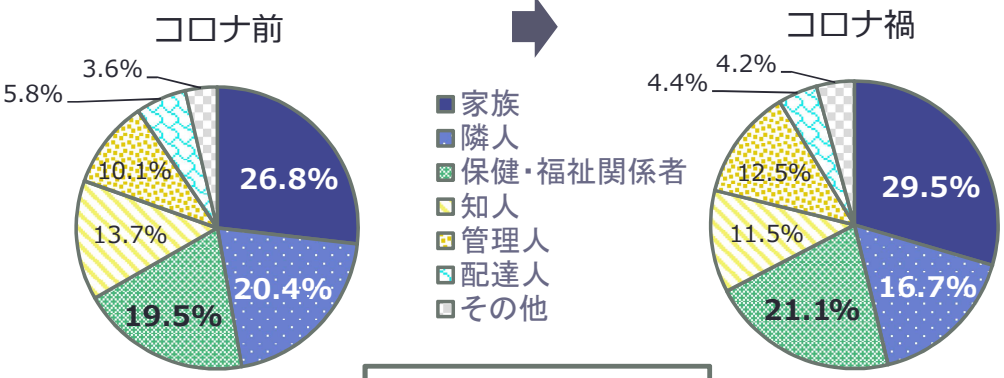
コロナ前　１１.６日
コロナ禍　１２.８日

10%増加

※　中央値は4日から3日へ減少

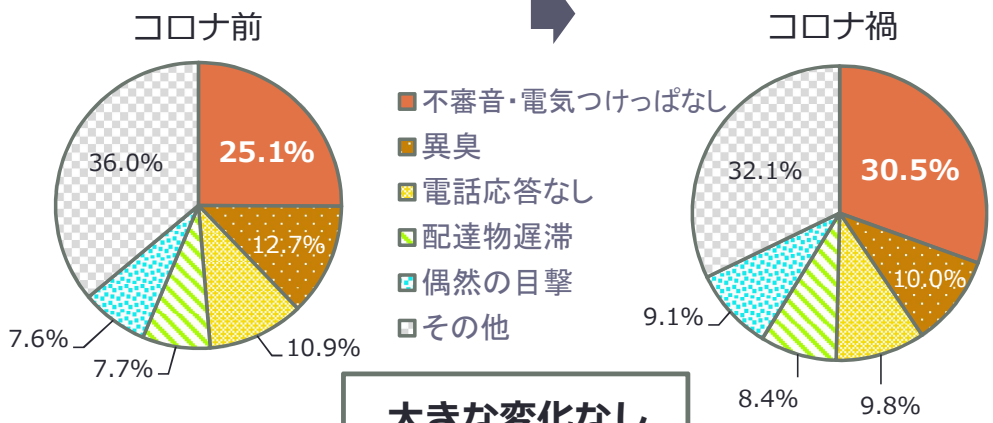


発見者の割合



大きな変化なし

発見の経緯の割合



大きな変化なし

４　集計結果･分析

	集計結果	分析
（1） 時期別	ア　**令和４年の孤立死者数**　P３ 分析開始以降最大となった。特に、過去の平均と比較して２月、３月に増加した。 イ　**夏季の孤立死者数**　P４、５ 最高気温が３５℃（猛暑日）を上回ると、２.７倍になった。 最低気温が２７℃を上回ると、２.5倍になった。 ウ　**冬季の孤立死者数**　P６ 最高気温と最低気温の気温差が１２℃を上回ると、１.3倍になった。	ア　**令和４年２月、３月の孤立死増について** 死亡直前の状況が就寝中・入浴中の死者数が増加していることが分かったが、最低気温、気温差等の気候条件との関連性は見られず、はっきりとした理由は解明できなかった。また、新型コロナウイルス感染症による増加もなかった。 イ　**夏季・冬季の孤立死の傾向について** 夏季は最高気温と最低気温、冬季は１日の気温差と孤立死者数に関連性があった。この傾向は、令和元年度に分析を始めたときから同様である。
（2） 状況別	ア　**状況別の孤立死**　P７ 【就寝中】１、２、８、１２月は、他の月と比較して孤立死のリスクが高まる。 【入浴中】１～３、１２月は、他の月と比較して孤立死のリスクが高まる。	ア　**状況別の孤立死の増加について** 夏季に増加する状況別の孤立死については、エアコンの使用などの熱中症対策により防止効果が期待できる。一方、冬季に増加する入浴中の孤立死については、ヒートショック対策が有効だと考えられる。
（3） 男女別	ア　**高齢者男性の孤立死者数** 女性と比較しては男性が２.２倍多い。 P８ イ　**発見までの平均経過日数** 女性と比較して男性が１.８倍多い。また、３０日以上経過したケースは８３%が男性だった。	ア　**男性の孤立死・経過日数について** 孤立死者数、発見までに要した平均経過日数は、女性に比べ男性が大幅に上回っていた。過去の集計結果と比較しても、同じ傾向にある。 男性の死後経過日数が令和３年度集計結果と比較して0.7日増加したが、発見までに483日の事案が１人あったことで、平均値を押し上げた。

５　今後の取り組み

（１）　絆のあんしんネットワーク連絡会や地域包括支援センター、町会・自治会等の関係機関に対して本分析結果を共有し、**周知・啓発を進めるとともに、孤立死が増加する夏季・冬季の見守りの強化を依頼していく。**さらに、区民に対しても広報等で直接的に周知・啓発を進めていく。また、男性の孤立を防ぐため、サロン活動や自主グループ立ち上げ等の働きかけを行っていく。

（２）　ビューティフル・パートナーとして出展するイベントなどにおいて、引き続き協力員の登録を広く呼びかけることで、**若い世代などによる新たな気づきの目を増やしていく**。

（３）　環境政策課（エアコン購入費補助金）、建築防災課（浴室暖房設置工事費助成）、衛生管理課などの**関係所管と連携し**、より効果的な孤立死対策について検討していく。